

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 2 日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2016～2017

課題番号：16H06697

研究課題名(和文)戦国期室町幕府発給文書の研究

研究課題名(英文)A study of Documents Issued by the Muromachi Shogunate in the warring states period

研究代表者

木下 聡 (KINOSHITA, Satoshi)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・助教

研究者番号：40778651

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文):本研究では、戦国期の室町幕府発給文書のうち、10代義植から15代義昭までの足利将軍と、その側近が発給した文書を中心に集積し、検討することを目的としており、各種史料集や自治体史からの蒐集、各地の博物館・図書館などで所蔵する史料の調査などを行った。

成果としては、将軍発給文書なども収めた故実書である「大和家蔵書」全十二冊のうち、八冊分を翻刻し、戦国期の幕府を考える上でも重要な外様衆・奉公衆についてまとめた『室町幕府の外様衆と奉公衆』を刊行した。また約340通を確認した10代義植の発給文書については、現在史料集として刊行するべく作業中である。

研究成果の概要(英文): A purpose of this study is accumulation and examination about documents Issued by the Muromachi Shogunate(ASHIKAGA Shogun from Yoshitane to Yoshiaki and his attendant) in the warring states period. I gathered from various historical materials collection and municipal history, surveyed of historical records in various museum and library.

As a result, I reprinted 8 books out of false book "Yamatokezousyo" all 12 books. And, I published "Tozamasyuu and Houkousyuu of Muromachi shogunate". This Tozamasyuu and Houkousyuu is important to think about Muromachi shogunate in the warring states period. Also, now I am working to publish historical materials collection about documents Issued by 10th shogun Yoshitane.

研究分野：日本中世政治史

キーワード：室町幕府 将軍 発給文書 側近 戦国期

### 1. 研究開始当初の背景

中世後期の政治を考える上で、全国政権である室町幕府の検討は不可欠である。しかし明治以降、南朝正統思想の中で逆賊とされた足利尊氏に始まる室町幕府は、研究対象の主流から外れ、それが改善された太平洋戦争後も、応仁の乱、あるいは明応二年(1493)に起きた明応の政変以後の戦国期室町幕府は、ただ衰微してしまい、求心力も影響力も失われ、最終的に織田信長によって滅ぼされてしまう、といった認識でしか語られてこなかった。戦国大名研究が盛んになされる中で、幕府の存在はするまでもないような扱いであったのである。

むろん研究が皆無というわけではなく、室町幕府を検討する上で、戦国期を見据えて一部触れることは行われていた。そして今谷明氏の、『室町幕府解体過程の研究』(1986年)に代表される一連の研究により、幕府を支えた細川氏や、将軍家と対立する形で堺に拠った足利義維の存在が明らかにされているが、幕府そのものを正面から捉えているわけではなかった。

そして1990年代以降、戦国期室町幕府の研究がようやく本格的に始まり、山田康弘『戦国期室町幕府と将軍』(2000年)刊行以降、様々な面からの研究がなされるようになった。将軍と各地の大名との関係でも、同じく山田康弘氏が「戦国期大名間外交と将軍」(『史学雑誌』112-11)などで、西日本を中心に、諸大名は領国内や他大名との関係など様々な事情によって、幕府および将軍を利用する必要があり、そのために逆に将軍から制約を受けることになったこと、幕府は大名に対して窓口となる取次を設け、取次の働きや選択が幕府と大名との交渉で重要であったなどを指摘している。

ただ現在においても、戦国期室町幕府研究は、上記山田康弘氏の研究を除き、いまだ将軍やその周辺の、ごく限られた範囲についての基礎的研究にとどまり、全国への将軍の影響力や、果たした機能の解明といった根本に関わる問題にまでは踏み込まれていない。またその基礎的研究ですらも、十分になされているとは言えない。

これはひとえに研究の根本をなす史料集がほとんど無いことが大きい。幕府の経済に関わる政所については『室町幕府引付史料集成』があり、将軍の命令を伝える奉行人の文書は『室町幕府文書集成』があるものの、肝心の将軍と取次などを務める側近の文書を集成した史料集は、室町幕府全体を通じていまだできていない。あるのは初代将軍尊氏の文書の研究と、久野雅司編著『足利義昭』掲載の、15代義昭の発給文書目録ぐらいである。つまり、将軍と取次などを務める側近の文書を集成した史料集は、室町幕府全体を通じていまだできていない状況であった。

そのため自身で8代義政と9代義熙の発給文書を集成した史料集を上梓したが、それ以

降については未着手であった。そのため将軍を中心とした、戦国期室町幕府が発給・受給した文書を集成しようと思いついたのである。

### 2. 研究の目的

第一には、戦国期室町幕府を考える上で、あるいは戦国大名や国衆の外交交渉や政治的動向を考える上で、基本となる将軍とその側近の発給・受給文書の網羅的蒐集により、幕府の影響力や存在意義を明らかにすることを主要な目的とする。

副次的な目的として、蒐集文書は基本的に無年号文書であるため、史料蒐集の結果、署名に用いられる花押形の照合やその変遷も明らかになり、年代・人物比定をする作業を進めることができる。また、史料集で翻刻されている史料も、刊行する都合上、宛所や署名の位置など、原文書の形とは異なって翻刻されることが多く、誤読や変換ミスも若干ながらある。特に宛所や署名の位置、文書の最後の書留文言の崩し方は、当時の文書の書き方である書札礼に大きく関わる問題であり、中世の武家社会を大きく規定する儀礼を考える上でも重要な要素である。

そして室町幕府のみならず、幕府と関わる各地の大名の相互関係についても、考察を深めていくことにする。

### 3. 研究の方法

全国に散らばる戦国期の足利将軍(10代義隆～15代義昭まで)の発給した文書と、それに付随して出された側近の文書、各地の大名・領主から側近に対して出された文書を、これまでに刊行された史料集・自治体史から集め、未翻刻史料については、現物・写真・影写本・写本などにあたることによって集積する。

そうして蒐集した文書を戦国期室町幕府の基礎的史料とし、それをもとに将軍が果たした政治的役割、幕府と大名・国衆間の外交交渉がどのように行われたかを明らかにする。

そのために、全国に残る戦国期足利将軍の発給した文書と関連する史料を蒐集した上で、それを個別・包括的に検討することとする。

### 4. 研究成果

(1)まず、各史料集や機関への調査を行った成果としては、将軍発給文書がそれぞれ、10代義隆が約340通、11代義隆が約175通、12代義隆が約520通、13代義隆が約360通、14代義隆が2通、15代義隆が約550通となった。ただし、側近発給文書・受給文書については、作業期間の短さもあって、まだ不十分であると思われる。

その作業の中で、従来紹介されていなかった文書のうち、明応の政変直前に足利義植が出したことがわかったものを、史料紹介及びその内容・意義を示した(雑誌論文)。

また、10代義植を考える上で重要な、8代義政の弟で、義植の父であり、応仁の乱の当事者の一人でもある足利義視について、その生涯と、義政との関係を略述した(雑誌論文)。

(2)室町幕府將軍直臣にあたる奉公衆・外様衆について、本研究を開始する前に著述したのも併せて、一冊の研究書にまとめた(図書)。奉公衆については、時代毎の人員と規模の変遷、外様衆については、人員と構成する家についての説明、そして外様衆の中でも將軍と政治的な面で関わる部分の多い評定衆家(摂津・二階堂・町野・太田・波多野の五家)について、それぞれ系譜関係・政治動向を詳しく検討している。

また9代義熙期に側近として政治に大きく関わる事もあった奉公衆結城氏について、従来全く検討されていない系譜関係をも含め、室町幕府に属している期間を通して、その政治動向を明らかにし、幕府内でどのように生き残りを図ったかを示した(雑誌論文)。

(3)史料紹介として、將軍文書の控えも書写している故実書「大和家蔵書」を二度にわたって翻刻した(雑誌論文)。ただしまだ全十二冊のうち、三分の二の八冊を翻刻したのみであり、残りも今後していく必要がある。

また故実書としても、従来知られていなかった部分が多く、室町幕府の儀礼を知る上で今後大きく寄与することになると思われる。

(4)これらの成果は、今後の室町幕府研究の基礎となるだけでなく、幕府と関係を持った戦国大名・国衆を考える上でも重要なものとなる。

今後の展望として、將軍文書の副状を出した側近衆の役割をより明らかにでき、ひいては権力体における側近の位置付けを考察できると思われる。

また活動期間の違いはあるものの、將軍によって発給した文書数にかなりの隔たりがあることがわかり、これについては今後検討すべき課題として残った。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

木下聡、明応の政変直後の足利義植御内書について、戦国史研究 74、査読有、2017、31~32

木下聡、「大和家蔵書」所収「大和大和守晴完入道宗恕筆記」、東京大学日本史学研究室紀要 21、査読無、2017、169~210

木下聡、足利義視、榎原雅治・清水克行編『室町幕府將軍列伝』、査読無、戎光祥出版、2017、224~232

木下聡、室町幕府奉公衆結城氏の基礎的研究、戦国史研究会編『戦国期政治史論集 西国編』岩田書院、査読無、2017、119~144

木下聡、「大和家蔵書」所収「大館伊予守尚氏入道常興筆記」、東京大学日本史学研究室紀要 22、査読無、2018、329~395

〔学会発表〕(計 1 件)

木下聡、室町幕府奉公衆の成立と変遷、室町期研究会、2017

〔図書〕(計 1 件)

木下聡、同成社、室町幕府の外様衆と奉公衆、2018、370

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等  
なし

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

木下聡 (KINOSHITA Satoshi)

東京大学・大学院人文社会系研究科・助教  
研究者番号：40778651

### (2)研究分担者

なし

### (3)連携研究者

なし

(4)研究協力者  
なし